

企業名： 日本発條

レポート名： ニッパツレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

概して、統合報告書から一貫したゴールが見えてこない。第一に、2023年中計グループ基本方針は以下のようなものである。「持続可能な成長を目指す 真直ぐ、自由闊達に 1. CSR活動のさらなる推進・ステークホルダーとの信頼関係の一層の強化・環境、社会課題への真摯な取り組み・品質第一のものづくりを徹底 2. 激変する事業環境への対応を加速・自動車の電動化、自動運転への対応を強化・次世代基幹事業を創出 3. 持続的な成長のための“もうけ”を確保・魅力のある商品を開発・更なる総原価低減」。第二に、社訓、企業理念は以下のようなものである。「躍進のニッパツ 根性のニッパツ みんなのニッパツ」「グローバルな視野に立ち常に新しい考え方と行動で企業の成長をめざすと共に魅力ある企業集団の実現を通じて豊かな社会の発展に貢献する」。ここで考えられるのが、中計方針と社訓、企業理念が分散していることである。様々な点で成長を望む姿勢は確かに悪いものではない。しかし、目標は一貫して具体的なものを提示する必要があると考える。統合報告書はステークホルダーに対して魅力的な情報を示すという役割があるからである。人権や環境、労働環境といった昨今の世界的な問題については深く言及しており問題はない。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

「ニッパツグループが社会に提供する価値」というセクションで、「顧客からの高い信頼」、「解析・評価技術」、「独立系」、「塑性加工・熱処理技術」、「製品の高い占有率」といった競争優位性が具体的に示されている。技術力で他社に秀でるという点がよくわかる。懸架ばね、シート、精密部品（精密ばね）といった各セグメントで、高い市場占有率を示しており、優位性がわかる。また、技術力については、トップページで「金属の熱処理・塑性加工技術」「評価・解析技術」「精密・微細加工技術」「金属接合」といった詳しい技術を示しており、他社と比較して評価しやすい。このように具体的かつ強力な競争優位性があり、とても良い評価ができる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

中期経営計画では、前述のとおり変革をメインとして据えており、現在の競争優位性の持続においては変革の内容次第となる。「クルマ電動化への取り組み」というセクションで、自動車の電動化、自動運転への対応を強化する方針を示している。従来 of 当社固有の技術を応用した方法で他社との差別化を図り、次世代の製品開発を行うという方針があり、競争優位性の持続性が理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「多様な人材の活躍を目指した取り組み」というセクションで示されているダイバーシティへの方針には疑問を感じる。まず、女性総合職新卒採用比率の低さがある。ここ三年をうじて10%付近の低い数字を示しており、2020年度は7.2%と驚異的に低い数字を示している。そのため、自分の人的資本の向上を果たせるのか不安である。古い体質から抜け出せていないと評価されても仕方ないと思える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

第一に、具体的かつ一貫した企業の理想像を示すべきである。前述したとおり、一貫した主張で強くステークホルダーに示していく必要がある。第二に、全体的に内容を絞るべきである。第一の改善点とも重なるが、主張が右往左往しているように感じられ、読み手が何を読み取ればいいのか最終的にわからなくなっている。